

産地戦略

実施期間 令和5年度

実施主体 栃木県
都道府県 栃木県
対象地域 大田原市等
対象品目 アスパラガス

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

栃木県のアスパラガス栽培は、収穫期間が3月～9月と長期にわたり、化学農薬の散布回数が多い。そこで、天敵農薬を活用した栽培技術を広く普及し、環境負荷を低減した産地を目指す。

現在の栽培体系

栽培マニュアルに記載のとおり



グリーンな栽培体系

栽培マニュアルに記載のとおり

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.6	10	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 天敵資材を活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	20	19	アザミウマ類に登録のある化学農薬使用回数

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

当該技術をJAと連携して産地に波及するとともに、薬剤選定や化学農薬による介入のタイミングなどを普及職員が指導し、定着を図る。

関係者の役割

関係者名	農業協同組合	生産者		
役割	当該技術の生産部会への波及	当該技術の実証と導入		



環境
省力
環境
省力